

平成20年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[不正競争防止法及び私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律]

知的財産権のライセンスを業とするX社とA社がある。X社の役員である甲とA社の役員である乙が、銀座のバーで密会し、知的財産権のライセンス料に関する情報を交換して、今後の両社のライセンス料設定に関する一定の感触を得た。その感触に基づいて、X社は常務会で知的財産権のライセンス料を決定し、決定事項を秘密とすることを決議した上で、資料は金庫に施錠して保管した。この金庫の鍵は、社長の保有する鍵と秘書室長の保有する鍵の2つが揃わなければ、解錠しない。ところが、甲は六本木のバーでB新聞社の記者である丙と面会したときに泥酔し、常務会の決定を丙に漏らした。甲と乙が密会していることを知っていた丙は、X社とA社がカルテルを行っているという内容の記事を執筆した。

この事実を前提として、X社は甲及び丙に対して、不正競争防止法上の措置を執ることができるか。甲と丙のそれぞれについて論ぜよ。

【50点】